



黒島魂

～しまごころ～

「みがきあい(キラキラ)」

「ささえあい(ニコニコ)」

「わかりあい(ワクワク)」

「自分」を考える



北京で冬季オリンピックが行われていますが、2月11日（金）のスノーボード男子ハーフパイプ決勝は、ご覧になられましたか？金メダルを手にした平野歩夢選手、すごかったですね。彼については、以前から、ちょっと派手な見た目とは裏腹に、インタビュー等マスコミ対応をする姿から、**謙虚さ、賢さ、逞しさ**が感じられたため好感を持ち、個人的に応援していたので、我が子が金メダルを取ったかのように喜んでしまいました。（サブチャンネル切り替えにもたつき、3回目を生で見ることができなかったのですが…。）

私が、彼のすごさを感じたのは、金メダルという結果は当然なのですが、それ以上に、2回目の点数が、理不尽ともとれるほど、予想をはるかに下回ったにもかかわらず、動揺することなく3回目も同じ技で、2回目より完成度を高めて成功させたことです。これは、技術的なこと以上に、精神的な要素が大きく関わっていると感じました。（実際、競技後の会見で、「圧倒的な滑りと**気持ちの強さと、メンタル、精神力**、普段の生活というものが上回っている人が勝つのではないか」と語る平野選手の姿がありました。）

2回目の後、彼にはいくつかの選択肢があったと思います。その中には「ジャッジにクレームをつける」や「技の難易度を落とし、完成度を高くする」等があったと思いますが、彼が選んだのは、「2回目と同じ技を成功させる」でした。かなり高いリスクを伴うにも関わらずです。どうしてそんなことができたのでしょうか。これは勝手に想像したことなのですが、彼の思考のベクトルが、常に自分自身に向いているからできたのではと思いました。どのような状況であっても、他者の責任にせず、自分のこととしてとらえ、「自分がなすべきことは何か？」を自分自身に問い続けているからこそ思考がブレない。思考がブレなければ、行動もブレない。その究極の形が、金メダルに結び付いた3回目なのではないかと思います。

これは何も、オリンピックの金メダリストに限った話ではないと思います。価値観が多様化し、SNS等の広がりに伴い、様々な人の様々な価値観が発信され、それを聞いたり、目にしたりする機会が多くなった現代社会です。社会の耐性は下がるとともに「言ったもん勝ち」的な風潮が広がり、理不尽に感じることも増えているように感じます。そこを生き抜いて自己実現を図るためには、思考のベクトルを自分に向けることは重要な要素であると思います。他者の考えを参考にすることはあっても、安易に流されることなく、自分を信じ「自分にできること」を考え、行動し続けたその先に、自己実現が待っているのではないのでしょうか。逆に思考のベクトルを他者に向け、出来事の責任を他者に持って行ってばかり（「人のせい」、「会社のせい」、「世の中のせい」）では、自分自身の成長には、つながっていかないと考えます。

繰り返しお伝えしておりますが、子供たちが巣立つ未来社会は、今以上に価値観が多様化し、我々の想像を超えるものとなる可能性が高いと言われていています。（所謂「予測困難な社会」）そんな社会を生き抜かなければならない子供たちの思考のベクトルを「自分」に向けさせるために、我々大人ができることは何でしょうか。（何もしないで身につくものではないですよ。）私は、安全の確保を前提としたうえで、大人が必要以上に「手を出さない」「口を出さない」ことだと思います。そうすることで「**自分で考え、判断する力**」を育てていくのです。（もちろん年齢に応じてその度合いは違ってきます。）

学校では「主体的で対話的な深い学び」の視点で授業改善を図っています。教師が子供に知識を教え込むだけの時代は終わりました。教師は必要な知識を子供たちに指導します。子供たちは、身につけた知識をベースに、**自分なりの課題**を持ち、課題解決に向け、自分の考えと友達との対話等で得た多様な考えを、比較検討する等**試行錯誤**を繰り返しながら**自分の考えを創造**していきます。この授業では、教師は進行役として、子供に関わり支援をしていきます。ここで教師に必要なのは「忍耐力」です。「教えること」を我慢するのです。教師という職業柄ついつい先に教えたいくなるのですが、そこをぐっとこらえて、子供たちに任せる必要があります。指導する教師も試行錯誤の毎日ですが、子供たちに「**未来に生きる力**」を育成するために、奮闘する毎日を送っていることを、皆様に少しでもお伝えできたのであれば嬉しいです。